

非連続の変革 未来創る

大日本印刷^⑬挑戦
する企業

—2018年の社長就任以来、「第3の創業」を本格的に推進しています。

「従来、印刷業は裏で支える愚子の意識が強かった。だが世の中の変化は激しく、受注仕事だけではニーズのある製品を作り切れない。だからこそ、当社自身が生活者に提供できる価値を考える『第3の創業』を推進している。当社の製品がどう生活者を豊かにできるのかという視点でBツ

社長

北島 義斉氏



変化捉え生活者を豊かに

B（企業間）事業にも取り組めるようになってきた。本と人の新しい出会いを提供する実験型書店『外濠書店』の運営など

「時流やニーズの変化を捉え、どこで何をどう作り、誰に提供するか。従来の形にとらわれないあらゆる挑戦が『非連続の創業』だ。一番大切なのは当社が価値あるモノを世の中に提供し永続的に成長すること。挑戦の風土を一層発展させて実現したい。社員の新しい挑戦を応援する意味を込めた言葉でもある」

北島義斉社長自ら、月に1度は日本全国の拠点を訪ね社員の挑戦を鼓舞しています。

化しています。

「今後も印刷技術を磨き、主軸として事業を展開する。社内外の多彩な技術を掛け合わせて共創すること、もっと多くの新しい価値を生み出せる」

「厳しい時勢ですが、祖業の出版印刷事業のありたい姿は。

「紙の印刷をやめる気は全くない。『文明の業を営む』という創業時の舎則、日本の知や文化を守ることに役立ちたい。利益率を高めるため4月に『DNP出版プロダクツ』を設立したが、他社との共創・書籍文化の醸成も含めて今後も事業としていかに継続できるか

「社長就任当初から続けている。初めは皆さんも硬かったが、回数を重ねるうちにいろいろな話をしてくれるようになった。私も直接、社員が挑戦する姿を見られてうれしい」

「印刷技術を基に多角

を考え続ける」

—26年に創業150周年を迎えます。次の150年をつなぐために大事なことは。

「現在高いシェアを獲得している製品も、開発には10—15年が必要だった。難しくても諦めずに挑戦し、生み出してきた歴史だ。今も当社には次代を見据えた研究を続ける社員がたくさんいる。研究の芽をつぶさずに、投資を続けられる忍耐力と開発力を磨きたい。日ごろの積み重ねがあつてこそ、市場のニーズと合致したタイミングで開花できる」

（この項おわり。熊川京花が担当しました）